



**写真等無断転載禁止**

## 千葉市にキツネ出現!!

2023年2月22日、千葉市緑区下大和田町の谷津田で、アカギツネの棲息を確認しました。アライグマ捕獲用の罠の前に現れたキツネの姿を仕掛けておいた赤外線カメラが捕らえたのです(写真1)。2022年11月4日、2022年12月2日にもそれらしい姿が写っていたのですが、ぼけていたり、遠かったりでキツネと確信が持てませんでした。



写真1. 赤外線カメラがとらえたアカギツネ①(2023年2月22日)

今回の写真は複数の専門家に見ていただきアカギツネという回答をいただきました。アカギツネ 千葉県では重要保護生物、千葉市では消息不明・絶滅生物となっています。場所は千葉市緑区下大和田町の谷津田。千葉市の北東の端に位置し、北側は若葉区と、北東は八街に、東は東金市に接しています。

広大な畑と山林に覆われた中に谷津が穿かれています。鹿島川の源流域の谷津のひとつで谷津の長さは2Km以上におよびますが、稲作は放棄され、ほとんどがヨシ、オギに覆われ、ヤナギの仲間やアズマネザサが侵入しています。谷津の中には水路が斜面林下と真ん中を流れる3つあり、そのうち2つは土水路で水は豊富、渇水期でも枯れたことがあります。谷津の中程2反2畝ばかり田んぼを維持していますがその畦にキツネは現れました。

2014年には「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」に選出され、2015年には環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されるなど動植物が豊に生息する自然環境が千葉市内にありながら残っています。哺乳動物は夜行性が多く日中目にすることはほとんどないのですが赤外線カメラでは夕

### 千葉市緑区 網代 春男

ヌキ、アライグマ、ハクビシン、イタチ、イノシシ、ノウサギ、シカまでも姿を捉えていました。

キツネの餌のなるだろう小動物・・・アカネズミ、ハツカネズミ、カヤネズミ、ヒミズ、ジネズミ、モグラ、地上で営巣する鳥ではキジ、コジュケイ、カルガモ、ヒクイナ、クイナ等も観察しています。両生類ではニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエルが谷津田にたくさん生息しています。爬虫類では千葉県に生息するすべての種(アカウミガメを除く)を下大和田谷津で観察しています。昆虫もたくさんいます。



写真2. 赤外線カメラがとらえたアカギツネ②(2023年3月10日)

こうしてみるとキツネの生息を支える餌は十分まかなえていると思われませんが競合するアライグマ、ハクビシン対策は必要です。在来生物を守るためにアライグマ捕獲用の罠とウシガエル捕獲用の罠を畦や小川に仕掛けています。アライグマは今期11頭、ウシガエルは9頭を捕獲しました。こうした活動の成果と言えるかも知れません。競合するアライグマやハクビシン、ウシガエルを排除できればよりキツネの生息に適した環境になってくると考えます。

キツネの行動範囲は広大といわれます。下大和田谷津だけでなく台地上の畑地、山林を含めて周辺地域全体で外来生物対策を組織的に行う必要があります。

**【事務局より】**2023年3月4日にはアナグマが撮影され、千葉市での棲息が確認されました(写真3)。今回のキツネ、アナグマと思われる写真を千葉県立中央博物館と千葉県生物多様性セン

ターに送り、同定をしていただいた所、次のような回答を頂きました。担当された千葉県立中央博物館の尾崎煙雄さんと千葉県生物多様性センター大島建夫さんにこの場を借りて御礼申し上げます。



写真3. 赤外線カメラがとらえたアナグマ(2023年3月4日)

### <千葉県立中央博物館からの回答>

① 哺乳類の専門家に動画を見ていただいたところ、次のような回答をいただきました。「耳裏が黒いこと、体色が均一なこと、尾が太くて伸びていること（巻き尾ではない）からキツネである可能性は極めて高いと思われます。」(3月6日)

② アナグマでよいと思います。以下の点でタヌキと区別できます。

- ・眼の周りの黒い模様の形
- ・耳が短く丸い
- ・足が短くて黒くない(3月11日)

### <千葉県生物多様性センターからの回答>

・哺乳類に詳しい職員とともに拝見させていただき、確かにキツネに間違いのないと思われます。まだ亜成獣くらいにも見えますね。もしそうだとすると、複数個体がいる可能性もありますね。

① アカギツネとアナグマのお写真および位置情報、ありがとうございます。下大和田谷津の貴重さを痛感します。

アナグマについては、近年、千葉市内で、若葉区、緑区を中心に複数の生息情報があります。

私自身、下大和田に近い若葉区中野町でロードキル個体を拾ったことがあり、中田町や大草町でも足跡を確認しています。

キツネについては、千葉市内では、「見た」というレベルの話は若干耳に入っており、昨年末も、緑区内で目撃された方のお話を聞きました。千葉市内では写真等は生物多様性センターにも寄せられておりませんので、今回の映像は大変に貴重に思います。もし差し支えなければ、今回の情報を、生物多様性センターのデータベースにも登録させていただいてもよろしいでしょうか？(3月17日)

② 正面からの映像は貴重ですね。また、佐倉市内のロードキル情報もありがとうございます。

岩富なら、千葉市とも比較的近いですね。鹿島川水系にはまだ点々と生き残っているのかもしれないね。(3月22日)

## 下大和田谷津田（猿橋地区）の開発計画について②

NPO法人ちば環境情報センター 代表 小西 由希子

### 谷津田の保全地区とは

千葉市では、平成4年から7年にかけて様々な分野の専門家が関わり、全市で生きもの調査が行われました。調査結果は「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書」（平成8年）としてまとめられていますが、市内には約4300種の野生動植物が確認され、その多くが谷津田や里山を中心とする自然環境に依存していることが学術的に明らかになりました。これが根拠となり、千葉市では「谷津田の保全」を環境行政の重点施策に位置づけてきたのです。

野生動植物と自然環境の保全のためには「広がり」とボリュームのある自然・緑の確保の実現が大切とし、「谷津田の自然の確保」が必要であるとされました。市では「千葉市谷津田の自然の保全施策指針」（平成15年7月）を定めており、谷津田保全の意義として以下の5点を挙げています。

- ① 多様な生態系の保全
- ② 原風景を守り育て農村文化を伝える

- ③ 自然とふれあい学ぶ
- ④ 都市環境の保全
- ⑤ 循環型社会の形成

下大和田（猿橋地区）の谷津田は、「千葉市谷津田の自然の保全に関する要綱」に位置づけられており、「景観、動植物の生息環境等を特に重点的に保全すべき区域」とされています。さらに2011年度の事業の見直しで「保全協定の締結や自然再生等の



春の下大和田谷津田(2021年4月22日)

活用を優先的に実施する地区」とされました。

千葉市による調査でも動植物の種数が特に多く、湧水量も最も豊富とされています。この谷津田の周辺には100haを超えるまとまった緑地（田畑、山林など）が広がっており、この涵養が豊かな湧水を生み出しているのです。これほどの規模の緑地は千葉市にはもうほとんど見られません。ここは鹿島川の最上流部で印旛沼に注ぎ、私たちの飲料水の源となっており、下大和田谷津田の湧水は千葉県民の命の水でもあるのです。

現在この谷津田は、「環境省 生物多様性保全上重要な里地里山」および「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」の選定地



となっ  
てい  
ます。

### 保全活動に期待されるもの

大量にあった不法投棄もごみひろいを続けずいぶん少なくなってきました。また、豊かな自然環境に魅了されて、毎年多くの親子連れが米作りや森の手入れに参加しています。コロナもあり大々的

千葉市環境保全課により今年新設された看板

な募集は控えています。参加希望者は年々増えています。

さらに昨年に引き続き今年も、ここでの保全活動が若葉区地域活性支援事業に採択されました。「里山は若葉区ならではの魅力だが、区内在住の人でさ

えもまだ体験したことがないという方がいます。自然観察ツアーなど、気軽に若葉区の魅力を体験するきっかけをつくり、若葉区の魅力に親しむ人を増やすような取り組みを期待」する「区のテーマ」に合致するものとして認められたものです。

### これから

わたしたちとしてはもちろんこのままここが保全されることを望んでおり、開発は大変残念です。もちろん地主さんのご意向も尊重しなければなりません。市の政策としても長く保全してきた谷津田が開発されるのをこのまま指をくわえて見ていることはできません。

情報が少ない中で不安は大きく、すべてが手探りですが、できるだけことはやっていきたいと考えています。今私たちに何ができるか、何をすべきか、まずは話し合いを重ね、考えていきたいと思っています。開発行為に関しては知らないことも多く学ぶ必要もあります。できる限り情報収集も行っていきたいと考えています。専門家にご助言いただいたり、同様な状況を経験した団体の方々にお話を伺うことも大切だと思っています。



下大和田の谷津田と土水路(2023年4月2日)

皆様には今後も新しい情報が手に入り次第お伝えしていきたいと思っております。ぜひお知恵もお力もお貸しいただきたく、心からお願い申し上げます。ご意見やご助言がありましたらお寄せください。よろしくお願いたします。 ※事業計画が以下のURLから閲覧できます。ぜひご覧下さい。

<https://www.mikikanko.com/detail12.html>

## 新浜の話62 ～うらぎく湿地～

観察舎正面左手にひろがっている「うらぎく湿地」。三方をアシ原で囲まれ、干潮時には泥干潟が干出し、満潮時には海水をたたえて、一見したところはいかにもよさそうな干潟です。

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

私たち夫婦が初めて観察舎に住み込んだ1975年12月当時には、潮が出入りする最大の水門である「千鳥水門」が閉鎖されており、三番瀬に直結している径1.8メートルの「暗渠水門」から海水が出入

# スロマン

作:つやま  
あまひこ

27



つやまあまひこウェブサイト  
21世紀絵コジ〜 <http://www.21eco.net>

りするだけでした。このため潮の動きはわずか10数cmしかなく、干潮時に干潟がひろがるという状態ではありません。「うらぎく湿地」はやや高く潮が上がらない陸地に三方を囲まれており、低い泥地に雨水がたまって、1976年秋には一面にウラギクの薄紫の花が咲きました。海に面した一方の口に低い土手を築いて塞ぎ、淡水の湿地にしようとしたのがいちばん初期の環境改善作業でした。もちろん嘉彪と百瀬邦和さん、それに私が手作業で行ったものですから、土手と言っても高さは30~40cm、幅は30cmもない、ちょうど田んぼの畔のようなものです。

1977年4月、思い切って千鳥水門を開放。一挙に海水の出入りが大きくなって、手作業で築いた土手はあっけなく決壊し、うらぎく湿地は入江と化してしまいました。しかし、補強に使った竹や杭の列などの土手の痕跡は長いこと残り、生きものも利用していました。

1989年、トヨタ財団の研究コンクールで造成した上池・下池の二面の池（後に「トヨタ池」と呼ぶようになった）から、ウラギク湿地に向かって水が流れるように水路を掘ったのはこのシリーズに書かせていただいたとおりです。流れを伝えてウナギの赤ちゃんが上がって来てくれた時の感動！言い尽くせません。

トヨタ池からうらぎく湿地に淡水が流入するところでは、トビハゼが早くからすみつきました。近くで見られるように、足場板で木道を作って干潟の上を歩けるようにしました。台風で流されたこともあります、トビハゼたちが木道のおかげで休んだりして、今でもトビハゼを見るにはとてもよい場所になっています。

歳月とともに保護区の自然が育って豊かになると、人が自由に利用したいという要望もひんぱんに議会等に上げられるようになってきました。当初からこうした声は数多くあり、もちろん今でも続いています。どこかで、何らかの形で要望に応じて行かないと、人のための公園として全体を開放せよ、という動向ばかりが進んで、本来の目的である生きもののための保護区が無視され、失われて行く可能性もいつでもあります。

入口から近く、よく見える位置にあるうらぎく湿地が、こうした声に応えるための緩衝地帯にもできるように、とりあえず、観察用のルートを作りました。今の「カニルート」です。ありがたいことには人の利用中心という公園化はまだ進んでおらず、年間100回近く行われている（新型コロナの警戒期間中は回数が減りましたが）観察会や、市川市内の小中学校の半数近くが来訪される市内見学の際の自然探検で、このルートはよく活用されています。

余談ですが、管理作業の中で一番面白かったのは、カニルートをはじめとした新しい道づくりでした。背丈をこすようなアシの群落の中で、どちらに進むか。遠い高压鉄塔などを目標として（いわゆる「山立て」です）、どのように道を通せばまわりの景色に変化がいたり、面白い生きものが見やすくなるか。頼もしい相棒の石川さんのおかげで、保護区の中に新しくいくつもの道ができました。

【発送お手伝いのお願い】ニューズレター2023年 5月号（第309号）の発送を 5月 8日（月）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にて おこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか ..... キリトリセン .....

住所〒 \_\_\_\_\_

ふりがな \_\_\_\_\_ Tel \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記: 今月号のニューズレターでも取り上げられている下大和田の谷津田が、今完全に消えてしまう宅地開発事業が進められています。幅4m~20mの道路が新造され、田んぼや水路は埋め立てられ、谷津田は生物の生息地としての機能を失います。この開発計画を、生きものが棲める形にしたいと考えています。ご協力をお願いいたします。 mud-skipper



☆第 213 回(2023 年 03 月 25 日(土)), 214 回(小山町 04 月 01 日(土)) YPP「苗代作り」 報告: 赤シャツ親父  
25 日、前日までの暖かさ一転、気温がぐっと下がり冷たい雨のそば降る朝でした。それでも稲は待ってくれませ  
ん! レギュラーメンバ根性込めて全員参加にて敢行と相成りました。小山の田んぼに合わせ毎年工夫を加え進化を  
続ける苗代システムは完成の域と自認するに至り、作業は昨年より効率的に進み、コシヒカリ、古代米含め、5 本  
の苗代を昼過ぎまでに完成させました。なお、翌週 4 月 1 日は一転、暖かで穏やかな陽気の元、緑米の苗代を完成  
させ、全ての苗代が整いました。元気に育ってくれ! 参加者: 25 日, 5 名 (大人 5 名) 4/1 日, 4 名(大人 4 名)

## 【谷津田・季節のたより】 2023 年 3 月

＜下大和田町＞ 報告: 田村光範

春の陽気の日が多くなり、ウグイスのさえずりが気持ち良いです。ガビチョウもよく鳴いています。  
葦原の中から、ヒクイナの鳴き声も聞こえてきます。

田んぼの中では孵化したばかりのアカガエルのおたまじゃくしが、元気に泳いでいます。  
シュレーゲルアオガエルの合唱も始まり、谷津田が賑やかになりました。

＜小 山 町＞ 報告: たんぽぽ

3/6 絨毯のようなホトケノザ、猛禽飛来。

3/7 シュレーゲルの声初鳴き。

3/14 ヒレンジャク飛来、観察の人ばかり。コブシ、ハナモモ満開。

3/23 ヒキガエル産卵。

## 【イベントのお知らせ】 主 催: NPO 法人 ちば環境情報センター

連絡先: 小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

### ＜下大和田谷津田＞

#### ・ 森と水辺の手入れ

日 時: 2023 年 4 月 16 日(日) 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容: スズメバチ捕獲用のトラップの製作や畦の補修作業などをします

持ち物: 長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費: 無料

#### ・ 第 289 回 下大和田 YPP 「田おこし」

日 時: 2023 年 4 月 29 日(土) 9 時 45 分～12 時 雨天決行

場 所: 下大和田 わいわい広場

内 容: 5 月 6 日の田うえに備えて、山形はえぬき田んぼの田おこしを行います。田おこしが終わった田んぼ  
で「谷津田運動会」を実施します。

持ち物: 動きやすい服装、長靴、お弁当、飲み物、敷物

参加費: 無料

#### ・ 第 290 回 下大和田 YPP 「田うえ」

日 時: 2023 年 5 月 6 日(土) 9 時 45 分～14 時 雨天決行

内 容: 3 月 25 日に苗床に播種したはえぬき、農林 1 号、赤米、黒米、緑米の苗を田んぼに植え付けます。

持ち物: 長袖長ズボンの服装、田んぼ用長靴、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物。

参加費: 無料

#### ・ 第 280 回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日 時: 2023 年 5 月 7 日(日) 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容: 緑深まる晩春の谷津田。盛んに飛び回るチョウやトンボなどを観察しながら谷津を巡ります。

持ち物: 筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋

参加費: 100 円(米づくり年間参加者は無料)

### ＜小山町谷津田＞

#### ・ 4 月期 小山町 YPP 「苗代の見回りと畦の整備」

4 月 1 日に苗代作りが終わりましたので、こまめに水回りの確認と畦の調整を行います。

※ 活動にご興味がある方は、 tomizo\_i@nifty.com 赤シャツ親父 までご連絡ください。

